

実務経験のある教員等による授業科目
 作業療法学科 教育課程（令和6年度以降入学の方）

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
保健医療福祉とリハビリテーションの理念									
リハビリテーション概論Ⅰ	15						15	1	◎
リハビリテーション概論Ⅱ		30					30	2	◎
小計	15	30					45	3	

3 専門分野

基礎作業療法学									
作業療法概論	30						30	1	◎
小計	30						30	1	
作業療法評価学									
作業療法評価学概論	30						30	1	◎
作業療法評価学Ⅰ		60					60	2	◎
小計	30	60					90	3	
合計	75	90					165	7	

実務経験のある教員等による授業科目
 作業療法学科 教育課程（令和5年度以前入学の方）

3 専門分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎作業療法学									
レクリエーション療法演習			30				30	1	◎
小計	0	0	30				30	1	
作業療法評価学									
作業療法評価学(2)			30				30	2	◎
作業療法評価学実習(2)			30				30	1	◎
小計	0	0	60				60	3	
作業療法治療学									
作業治療学Ⅰ(1)			60				60	4	◎
作業治療学Ⅰ(2)				30			30	2	◎
作業治療学Ⅱ(1)			60				60	4	◎
作業治療学Ⅱ(2)				30			30	2	◎
作業治療学Ⅲ(1)			60				60	4	◎
作業治療学Ⅲ(2)				30			30	2	◎
作業治療学Ⅳ(1)			60				60	4	◎
作業治療学Ⅳ(2)				30			30	2	◎
作業治療学Ⅴ(1)			30				30	2	◎
作業治療学Ⅴ(2)				30			30	2	◎
作業治療学Ⅵ				30			30	2	◎
小計		0	270	180	0	0	450	30	
合計			360	180			540	34	

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション療法演習 (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	2	1	前期	必修

◇講義概要

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法を理解する

◇到達目標

レクリエーションをととして医療現場におけるレクリエーションの考え方とその方法の理解

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ファストインプレッションとは	講義・演習	
第2回	出会いの場と分析（交流分析）	講義・演習	
第3回	デュアルタスク手遊び	講義・演習	
第4回	レクリエーション財とは	講義・演習	
第5回	活動の分析とアレンジ	講義・演習	
第6回	集団の中の個人を捉える（五感で感じる技術）	講義・演習	
第7回	集団を介したレク活動における観察法	講義・演習	
第8回	集団を介したレク活動の実際	講義・演習	
第9回	コミュニケーションワークと実践1	講義・演習	
第10回	コミュニケーションワークと実践2	講義・演習	
第11回	レクリエーションプログラムについて	講義・演習	
第12回	プログラム作成とその方法	講義・演習	
第13回	プログラム作成の実際	講義・演習	
第14回	ロールプレー1（評価演習）	演習	
第15回	ロールプレー2（評価演習）	演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験（ %）	<input type="checkbox"/> 実技試験（ %）	<input type="checkbox"/> 演習評価（ %）
	<input type="checkbox"/> 小テスト（ %）	<input checked="" type="checkbox"/> レポート（ 90 %）	<input checked="" type="checkbox"/> その他（ 10 %）

教科書	なし
参考図書	療法的レクリエーション資料 その他適宜配布
留意事項	学校内での授業は講堂にて実施 最終演習・実技にてレクリエーション課程を評価する 講義内容は予定ですので諸事情により変更することがある

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学 (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	2	2	前期	必修

◇講義概要

適切な治療及び指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本的事項について学ぶ。
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の意義, 目的を説明できる ・各評価法の意義, 方法, 目的を説明できる ・測定 (検査) 方法を修得し説明できる
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	協調性検査	講義	
第2回	知覚検査	講義	
第3回	知覚検査	講義	
第4回	画像評価、筋緊張検査	講義	
第5回	OSCE (協調性検査・知覚検査)、課題: 国家試験過去問題	試験	
第6回	上肢機能検査	講義	
第7回	脳神経検査	講義	
第8回	脳神経検査	講義	
第9回	興味・役割・QOL 検査	講義	
第10回	OSCE (上肢機能検査・脳神経検査)、課題: 国家試験過去問題	試験	
第11回	疾患別評価: ケーススタディ (中枢疾患)	講義・演習	
第12回	疾患別評価: ケーススタディ (中枢疾患)	講義・演習	
第13回	疾患別評価: ケーススタディ (整形疾患)	講義・演習	
第14回	疾患別評価: ケーススタディ (整形疾患)	講義・演習	
第15回	試験・まとめ	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (30 %) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 (医学書院) PT・OTのための画像のみかた (金原出版)
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた (医歯薬出版)
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワークへ主体的に参加する。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学実習(2) (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	2	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法評価学で学んだ内容を実習を通して学ぶ。

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の意義, 目的を説明できる ・各評価法の意義, 方法, 目的を説明できる ・測定(検査)方法を修得し実施できる
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	協調性検査	演習	
第2回	知覚検査	演習	
第3回	知覚検査	演習	
第4回	画像評価、筋緊張検査	演習	
第5回	OSCE(協調性検査・知覚検査)、課題: 国家試験過去問題	試験	
第6回	上肢機能検査	演習	
第7回	脳神経検査	演習	
第8回	脳神経検査	演習	
第9回	興味・役割・QOL 検査	演習	
第10回	OSCE(上肢機能検査・脳神経検査)、課題: 国家試験過去問題	試験	
第11回	疾患別評価: ケーススタディ(中枢疾患)	講義・演習	
第12回	疾患別評価: ケーススタディ(中枢疾患)	講義・演習	
第13回	疾患別評価: ケーススタディ(整形疾患)	講義・演習	
第14回	疾患別評価: ケーススタディ(整形疾患)	講義・演習	
第15回	まとめ	講義・演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験(%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験(50%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価(30%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート(20%) <input type="checkbox"/> その他(%)
------	--

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版 (医学書院) PT・OTのための画像のみかた (金原出版)
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた (医歯薬出版)
留意事項	演習では主体的に参加する。 予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅰ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	4	前期	必修

◇講義概要

<p>身体障害に関する作業療法の総論と各論（脳血管障害、脊髄損傷、神経・筋疾患、リウマチ疾患、失調症、頭部外傷、切断、脱髄疾患、呼吸器疾患、熱傷、骨折等）について学ぶ。また、各疾患を実際に見ることと、併せて筋、感覚、循環、呼吸などの機能を理解する。喀痰等の吸引についても学ぶ。</p>
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の病態、障害像を理解する ・作業療法の特性を活かした評価、訓練、指導、援助方法を学ぶ ・身障領域の国試問題の理解を深める
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション（校外実習説明・準備など）	講義	
第2回	身体障害領域の実際 症例検討	講義	
第3回	校外学習（バリアフリー展 2024）	講義・演習	
第4回	校外学習（バリアフリー展 2024）	講義・演習	
第5回	校外学習レポート作成・発表準備	講義	
第6回	校外学習報告・発表	講義	
第7回	疾患別作業療法 内部疾患①	講義	
第8回	疾患別作業療法 内部疾患②	講義	
第9回	疾患別作業療法 内部疾患③	講義	
第10回	疾患別作業療法 GBS、MS など	講義	
第11回	疾患別作業療法 脳血管疾患	講義	
第12回	疾患別作業療法 喀痰吸引	講義・演習	
第13回	疾患別作業療法 喀痰吸引	講義・演習	
第14回	疾患別作業療法 骨折	講義・演習	
第15回	疾患別作業療法 骨折	講義・演習	
第16回	疾患別作業療法 切断	講義・演習	
第17回	疾患別作業療法 切断	講義・演習	
第18回	疾患別作業療法 手の外科・末梢神経損傷	講義・演習	
第19回	疾患別作業療法 手の外科・末梢神経損傷	講義・演習	
第20回	患者モデル評価説明、準備	講義	
第21回	患者モデル評価準備	講義	

令和6年度 作業療法学科 シラバス

回数	内容	講義形態	備考
第22回	患者モデル評価準備	講義	
第23回	患者モデル評価準備	講義	
第24回	患者モデル来校・評価実施	講義・演習	
第25回	患者モデル来校・評価実施	講義・演習	
第26回	患者モデル評価発表準備	講義	
第27回	患者モデル評価発表	講義	
第28回	患者モデルレポート作成	講義	
第29回	患者モデルレポート作成	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (発表 20%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20 %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (20 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	各種疾患学について事前に概要を調べておくこと。評価項目・方法の確認をすること。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅰ(2) (実務経験のある教員等による授業科目)	森木 紀博	2	2	後期	必修

◇講義概要

身体障害に関する作業療法の総論と各論（脳血管障害、脊髄損傷、神経・筋疾患、リウマチ疾患、失調症、頭部外傷、切断、脱髄疾患、呼吸器疾患、熱傷、骨折等）について学ぶ。また、各疾患を実際に見ることと、併せて筋、感覚、循環、呼吸などの機能を理解する。喀痰等の吸引についても学ぶ。

◇到達目標

- ・各疾患の病態、障害像を理解する
- ・作業療法の特性を活かした評価、訓練、指導、援助方法を学ぶ
- ・身障領域の国試問題の理解を深める

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義	
第2回	疾患別作業療法 脳血管障害	講義	
第3回	疾患別作業治療学 CVA（急性期の実際）	講義	
第4回	疾患別作業治療学 CVA（急性期の実際）	演習	
第5回	疾患別作業治療学 CVA（治療の実際）	講義	
第6回	疾患別作業治療学 CVA（症例検討）	講義	
第7回	ADLと作業治療学（起居動作）	講義・演習	
第8回	ADLと作業治療学（アクティビティ）	講義・演習	
第9回	ADLと作業治療学（更衣動作）	講義・演習	
第10回	ADLと作業治療学（食事動作）	講義・演習	
第11回	疾患別作業治療学 パーキンソン病	講義	
第12回	疾患別作業治療学 ニューロリハビリ	講義	
第13回	物理療法	講義	
第14回	物理療法	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 身体障害作業療法学 第3版（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	授業前の予習および授業後の復習をして授業に臨んでください。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅱ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	4	前期	必修

◇講義概要

精神障害に関する作業療法の総論と各論（機能的な精神障害、器質性精神障害、神経性精神障害、児童期・青年期の障害、老年期の障害）について学ぶ。また、病院やデイケアなどの関連施設の見学を通して障害の理解を深める。

◇到達目標

- ・精神疾患を患った人の気持ちを理解することができる。
- ・対象者の疾患に合わせたプログラムを立案できる。
- ・精神疾患の概要を説明することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	精神障害作業療法の理解	講義	
第2回	精神疾患と身体疾患の違い	講義	
第3回	精神科作業療法の概要	講義	
第4回	作業療法の特性	講義	
第5回	作業の特性についての自己分析	講義	
第6回	作業の要素を活かした治療	講義	
第7回	対象者の作業分析	講義	
第8回	精神障害の回復過程	講義	
第9回	対象者と作業療法	講義	
第10回	治療構造	講義	
第11回	対象者との関わり	講義	
第12回	症例検討	講義	
第13回	統合失調症の作業療法①	講義	
第14回	統合失調症の作業療法②	講義	
第15回	気分障害の作業療法①	講義	
第16回	気分障害の作業療法②	講義	
第17回	中間試験	試験	
第18回	観察からの評価	講義	
第19回	作業療法の手順	講義	
第20回	作業遂行機能の評価	講義	
第21回	神経症性障害と作業療法①	講義	
第22回	神経症性障害と作業療法②	講義	

令和6年度 作業療法学科 シラバス

第23回	物質関連障害と作業療法①	講義	
第24回	物質関連障害と作業療法②	講義	
第25回	チームアプローチと他職種からの情報収集	講義	
第26回	精神認知機能の評価検査概要	講義	
第27回	精神認知機能の評価検査の体験	講義	
第28回	模擬患者との面接と評価	講義	
第29回	総まとめ	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験 (65 %)	□実技試験 (%)	□演習評価 (%)
	■小テスト (25 %)	■レポート (10 %)	□その他 (%)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)
留意事項	予習、復習をすること

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅱ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	2	2	後期	必修

◇講義概要

精神障害に関する作業療法の総論と各論（機能的な精神障害、器質性精神障害、神経性精神障害、児童期・青年期の障害、老年期の障害）について学ぶ。また、病院やデイケアなどの関連施設の見学を通して障害の理解を深める。

◇到達目標

- ・精神疾患を抱える人たちの生き方や日々の生活について理解することができる。
- ・事例を通じて、具体的で現実的な評価や支援をできるようになる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	医療観察法と司法精神科作業療法	講義	
第2回	司法精神科作業療法の考察	演習	
第3回	精神科クリニックと精神科訪問リハの地域での取り組み	講義	
第4回	精神科訪問リハのプログラム立案	演習	
第5回	集団の活用	講義	
第6回	集団力動を理解し、目的に合わせたプログラムの立案	演習	
第7回	精神疾患の地域作業療法	講義	
第8回	中間試験と復習	試験	
第9回	うつ病の患者の実際	講義	
第10回	うつ病の治療プログラム立案	演習	
第11回	摂食障害の作業療法	講義	
第12回	摂食障害の治療プログラム立案	演習	
第13回	精神疾患の回復過程	講義	
第14回	精神疾患の回復過程に合わせたプログラム立案	演習	
第15回	試験および解説	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (20 %) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (10 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	精神障害と作業療法 新版 (三輪書店)
留意事項	予習、復習をすること

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅲ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	池田 沙弥香	2	4	前期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。また、正常児や障害児の観察を通して理解を深める。

◇到達目標

- ①発達期に障害を持つことの意味を理解することができる
- ②発達障害児者への作業療法評価について学ぶ
- ③各疾患の特徴やそれに対する代表的アプローチを学ぶ
- ④正常発達を理解し正常発達を促すことができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	発達期に障害を持つ意味	講義	
第2回	発達障害領域の作業療法	講義	
第3回	認知・思考機能の発達	講義	
第4回	姿勢・運動発達とその背景	講義・演習	
第5回	感覚統合機能の発達	講義・演習	
第6回	コミュニケーション機能の発達 ※コンパニオンアニマル同行授業	講義・演習	
第7回	子どもの発達と遊びー自分たちの遊び歴を振り返る	講義	
第8回	作業の見方ー作業の発達と変容	講義	
第9回	発達障害領域の作業療法評価	講義・演習	
第10回	脳性麻痺に対するアプローチ（脳性麻痺について）	講義・演習	
第11回	感覚統合機能に対するアプローチ（構造化を探す） ※コンパニオンアニマル同行授業	講義・演習	
第12回	脳性麻痺に対するアプローチ（各タイプに対する作業療法）	講義・演習	
第13回	セルフケアの発達と遊び	講義	
第14回	脳性麻痺に対するアプローチ（各タイプに対する作業療法）	講義・演習	
第15回	発達障害に対する代表的な治療法 - ①TEACCH	講義	
第16回	自閉症スペクトラム障害に対するアプローチ	講義・演習	
第17回	自閉症スペクトラム障害に対するアプローチ	講義・演習	
第18回	注意欠如多動性障害に対するアプローチ	講義・演習	
第19回	限局性学習障害に対するアプローチ	講義・演習	
第20回	発達障害に対する代表的な治療法 - ②SST（小児）	講義・演習	
第21回	発達障害に対する代表的な治療法 - ③SST（成人）	講義・演習	

令和6年度 作業療法学科 シラバス

第22回	発達障害に対する代表的な治療法 - ④CBT (小児)	講義・演習	
第23回	発達障害に対する代表的な治療法 - ⑤CBT (成人)	講義・演習	
第24回	事例検討－自閉症スペクトラム障害・知的障害①	講義・演習	
第25回	事例検討－自閉症スペクトラム障害・知的障害②	講義・演習	
第26回	事例検討－脳性麻痺①	講義・演習	
第27回	事例検討－脳性麻痺②	講義・演習	
第28回	事例検討－大人の発達障害	講義・演習	
第29回	まとめ	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験 (60 %)	□実技試験 (%)	■演習評価 (30 %)
	□小テスト (%)	□レポート (%)	■その他 (提出物 10 %)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、予習・復習を行ってください ※第3・6・11・13・15～29回の振り返りシート記入を通して授業内容の復習をすること

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅲ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	池田 沙弥香	2	2	後期	必修

◇講義概要

発達障害に関する作業療法の総論と各論（知的障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。また、正常児や障害児の観察を通して理解を深め、評価の視点を学び実践できるようになる。

◇到達目標

- ①発達障害児者への作業療法評価について学ぶ
- ②各疾患の特徴やそれに対する代表的アプローチを学ぶ
- ③正常発達を理解し正常発達を促すことができる
- ④発達障害児者に対する必要な評価および治療を考えようとする姿勢・視点を持つことができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	姿勢・運動発達とその背景 - 原始反射、立ち直り反応・平衡反応	講義	
第2回	評価 - 発達障害領域の作業療法評価、情報収集および面接・観察の観点	講義	
第3回	評価 - 発達像を把握するための検査	講義	
第4回	評価 - 評価結果の分析と解釈	講義	
第5回	知的障害に対するアプローチ	講義・演習	
第6回	摂食嚥下障害に対するアプローチ	講義・演習	
第7回	デュシェンヌ型筋ジストロフィーに対するアプローチ	講義・演習	
第8回	二分脊椎に対するアプローチ	講義・演習	
第9回	分娩麻痺に対するアプローチ	講義・演習	
第10回	薬の基礎知識	講義	
第11回	医療的ケア児とその家族	講義	
第12回	家族、地域を含めた支援	講義	
第13回	事例検討 - デュシェンヌ型筋ジストロフィー	講義・演習	
第14回	事例検討 - ダウン症	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (20 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (提出物 10 %)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	※授業理解のために、予習・復習を行ってください ※各回の振り返りシート記入を通して授業内容の復習をすること

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅳ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	島本 良重	2	4	前期	必修

◇講義概要

老年期に関する作業療法の総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。また栄養学についても理解を深める。

◇到達目標

- ・加齢と老化の違いについて理解し述べるができる（老化に伴う変化）
- ・高齢期の作業療法に必要な評価技能を身につけることができる 標準予防策 血圧・体温・脈拍測定
- ・ライフコースと作業療法について学び、キャリア形成について述べるができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 総論（治療や支援のための基礎知識）	講義	
第2回	治療や支援のための基礎技能 体表解剖：脈の触れる動脈	講義・演習	
第3回	老年期を中心とした人口問題と作業療法	講義・演習	
第4回	治療や支援のための基礎技能 バイタル測定の手順確認（姿勢・器具）	講義・演習	
第5回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第6回	治療や支援のための基礎技能 バイタル測定の手順確認（姿勢・器具）	演習	
第7回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第8回	高齢者の生活体験と作業療法	講義・演習	
第9回	ライフコースと高齢者の健康の実態	講義・演習	
第10回	ライフコースと高齢者の健康の実態 就業の実態：法令との関連	講義	
第11回	ライフコースと高齢者の健康の実態 就業の実態：法令との関連	講義	
第12回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 認知症	講義・演習	
第13回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 認知症	講義・演習	
第14回	老年期作業療法 認知症についての実際 絵画療法	講義・演習	
第15回	老年期作業療法 認知症についての実際 絵画療法	講義・演習	
第16回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 循環器疾患：バイタル実技	講義・演習	
第17回	老年期作業療法で注意すべき疾患とリスク 循環器疾患：バイタル実技	講義・演習	
第18回	ACPについて	講義・演習	
第19回	「いのちの授業」	演習	
第20回	「いのちの授業」	講義・演習	
第21回	制度と作業療法提供施設 医療施設	演習	
第22回	制度と作業療法提供施設 医療施設	演習	

令和6年度 作業療法学科 シラバス

第23回	制度と作業療法提供施設 介護系施設	講義・演習	
第24回	制度と作業療法提供施設 介護系施設	講義・演習	
第25回	制度と作業療法提供施設 行政保健	講義・演習	
第26回	制度と作業療法提供施設 行政保健	講義・演習	
第27回	制度と作業療法提供施設 一般企業	講義	
第28回	制度と作業療法提供施設 一般企業	講義	
第29回	中年期および高齢者の健康問題 視覚障害 聴覚障害	講義	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験 (70 %)	□実技試験 (%)	■演習評価 (10 %)
	■小テスト (10 %)	■レポート (10 %)	□その他 (%)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学 (メジカルビュー社)
参考図書	順次紹介する予定
留意事項	授業の前後に、予習・復習すること。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅳ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	島本 良重	2	2	後期	必修

◇講義概要

<p>老年期に関する作業療法の総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。また栄養学についても理解を深める。</p>
--

◇到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・制度と作業療法提供施設について、調べ述べることができる ・介護保険や各種サービスの内容について、資料を作成し表現することができる ・作業療法の介入について、作業療法過程に基づき評価計画を立案することができる
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義・演習	
第2回	高齢者マネジメント	講義・演習	
第3回	高齢者マネジメント ケアマネジメント フレイルとサルコペニア	講義・演習	
第4回	QOL と健康の増進	講義・演習	
第5回	訪問の目的とサービス内容 目標設定について	講義・演習	
第6回	訪問の目的とサービス内容 目標設定について	講義・演習	
第7回	通所の目的とサービス内容 絵画療法	講義・演習	
第8回	通所の目的とサービス内容 ディケア（認知症）	講義・演習	
第9回	入所の目的とサービス内容 介護老人保健施設	講義・演習	
第10回	入所の目的とサービス内容 排泄ケア	講義・演習	
第11回	作業療法による介入 訪問看護ステーション	講義・演習	
第12回	作業療法過程について 入所	講義・演習	
第13回	作業療法過程について 在宅介護を経験した事例	講義・演習	
第14回	作業療法過程について 地域活動 機能訓練事業とその後	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	■試験（ 50 %） □実技試験（ %） ■演習評価（ 20 %） ■小テスト（ 10 %） ■レポート（ 20 %） □その他（ %）
------	---

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 老年期作業療法学（メジカルビュー社）
参考図書	
留意事項	授業の前後に、予習・復習すること。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅴ (1) (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	前期	必修

◇講義概要

日常生活活動に関する技術論の基礎知識（定義、歴史、作業療法士の役割、生活様式とADL、指導理論）及び基礎技法（評価、指導計画、指導の実例）について学ぶ。さらに自助具作成を行い、疾患の特徴を踏まえた対象者に対する自助具を用いた日常生活活動の支援方法について学ぶ。

◇到達目標

- ・ADL、IADLの概念範囲を説明することができる
- ・基本動作、ADL動作について模倣することができる
- ・代表的なADL、IADL評価法について実施することができる
- ・疾患の特徴と関連付けて自助具を作成することができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ADLとIADLの概要	講義	
第2回	評価法(1) Barthel IndexとFIM	講義	
第3回	評価法(2) 機能的自立尺度(FIM)	講義	
第4回	評価法(3) 機能的自立尺度(FIM)	講義	
第5回	評価法(4) 機能的自立尺度(FIM)	講義	
第6回	評価法(5) 機能的自立尺度(FIM)	講義	
第7回	基本動作(寝返り、起き上がり)	講義・演習	
第8回	基本動作(立ち上がり・車椅子移動/歩行)	講義・演習	
第9回	基本動作(移乗 車いす⇔ベッド 車いす⇔トイレ 車いす⇔浴槽)	講義・演習	
第10回	自助具作成	講義・演習	
第11回	自助具作成	講義・演習	
第12回	自助具作成	講義・演習	
第13回	自助具作成	講義・演習	
第14回	まとめ	講義・演習	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (80 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (10 %)
	<input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10 %) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学(ADL) 改訂第2版 (メジカルビュー社)
参考図書	実践リハビリテーション・シリーズ 脳卒中の機能評価-SIASとFIM [基礎編] (金原出版)
留意事項	授業には能動的に参加すること。予習と復習を行うこと。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学Ⅴ (2) (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	後期	必修

◇講義概要

日常生活活動に関する技術論の基礎知識（定義、歴史、作業療法士の役割、生活様式とADL、指導理論）及び基礎技法（評価、指導計画、指導の実例）について学ぶ。さらに日常生活活動につながる車椅子シーティングの支援方法について学ぶ。

◇到達目標

- ・疾患別のADLの特徴を理解し、それぞれに異なる援助方法を理解する。
- ・ADL訓練における作業療法士の役割と他職種との役割を理解する。
- ・車椅子シーティングに関連する知識を学び、演習を通して支援方法の実際を理解する。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ADL、IADL支援の実際	講義	
第2回	ベッド上介助の方法	講義・演習	
第3回	疾患別ADL脳卒中	講義	
第4回	疾患別ADL脊髄損傷	講義	
第5回	疾患別ADLリウマチ	講義	
第6回	疾患別ADLパーキンソン病	講義	
第7回	疾患別ADL認知症	講義	
第8回	PTのADLリハビリ	講義	
第9回	STのADLリハビリ	講義	
第10回	車椅子シーティングの実際	講義・演習	
第11回	車椅子シーティングの実際	講義・演習	
第12回	車椅子シーティングの実際	講義・演習	
第13回	車椅子シーティングの実際	講義・演習	
第14回	まとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (100 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 日常生活活動学 (ADL) 改訂第2版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	授業には能動的に参加すること。予習と復習をしておくこと。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業治療学VI (実務経験のある教員等による授業科目)	籠島 段	2	2	後期	必修

◇講義概要

義肢、装具、リハビリテーション関連機能（自助具を含む）について学ぶ。基礎知識（定義、歴史、種類、構造、機能、作業療法士の役割、対象疾患及び障害）と基礎技能（製作、適合判定、訓練、追跡調査）の実習を行う。

◇到達目標

*車いすシーティングについて説明することができる
 *義肢・装具の名称や対象疾患(障害)などの基礎知識と適合判定などの基礎技能を身に付ける
 *基本的なスプリントを作成することができ、対象疾患や使用方法などについて説明することができる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	義肢装具学 総論	講義	
第2回	車いすシーティングとは	講義・演習	
第3回	車いすシーティングの実際	講義・演習	
第4回	上肢切断に対する義手	講義・演習	
第5回	上肢切断に対する義手（実例をもとに考える）	講義・演習	
第6回	デジタルアクセサビリティ	講義・演習	
第7回	デジタルアクセサビリティ	講義・演習	
第8回	下肢・体幹の装具	講義・演習	
第9回	スプリントについて	講義・演習	
第10回	スプリント製作実習（スプリントの構造・デザイン）	演習	
第11回	スプリント製作実習（装具のチェックアウト）	演習	
第12回	スプリント製作実習（短対立装具）	演習	
第13回	スプリント製作実習（カックアップ）	演習	
第14回	スプリント製作実習（PIP 伸展スプリント）	演習	
第15回	試験（フィードバック含む）	試験	

評価方法	■試験（ 80 %）	□実技試験（ %）	□演習評価（ %）
	□小テスト（ %）	■レポート（ 20 %）	□その他（ %）

教科書	標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚学 別巻 義肢装具学（医学書院）
参考図書	
留意事項	授業理解のため、授業前後に予習、復習を行うこと

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論Ⅰ (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	1	1	前期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と、社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。

◇到達目標

- ・リハビリテーションについて説明できる。
- ・ICF、ICIDH、ADL、QOLを理解し、論じることができる。
- ・ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインについて説明できる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	リハビリテーションの概要	講義	
第2回	リハビリテーションの定義と4つの側面	講義	
第3回	ノーマライゼーション、バリアフリー、福祉用具	講義	
第4回	制度・法律の活用	講義	
第5回	他職種の仕事（介護福祉士）	講義	
第6回	他職種の仕事（看護師）	講義	
第7回	ADLとIADL、QOL	講義	
第8回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	--

教科書	リハビリテーション医学（メディカルビュー社）
参考図書	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版（医歯薬出版社）
留意事項	予習復習をすること

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
リハビリテーション概論Ⅱ (実務経験のある教員等による授業科目)	石川 大	1	2	後期	必修

◇講義概要

リハビリテーションの理念と社会的・地域リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患についても学ぶ。

◇到達目標

- ・医療従事者として必要な知識を、専門用語を用いて説明できる。
- ・代表的な疾患を理解し、ICFを用いて対象者の全体像を把握できる。
- ・SOAPを用いた記録が書ける。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	疾患調べ(脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第2回	疾患調べ(脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第3回	疾患調べ(脳卒中、脊髄損傷、神経筋疾患、運動器疾患、発達障害、精神障害)	講義・演習	
第4回	疾患調べ 発表①	講義・演習	
第5回	疾患調べ 発表②	講義・演習	
第6回	住環境の整備と福祉機器	講義	
第7回	SOAPを用いた観察記録①	講義	
第8回	SOAPを用いた観察記録②	講義	
第9回	ICIDHとICF	講義	
第10回	ICFを用いた対象者の全体像の把握	講義	
第11回	チーム医療	講義・演習	
第12回	他職種の仕事(PT)	講義	
第13回	他職種の仕事(ST)	講義	
第14回	リハビリテーション概論のまとめ	講義	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験(80%) <input type="checkbox"/> 実技試験()% <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価(20%) <input type="checkbox"/> 小テスト()% <input type="checkbox"/> レポート()% <input type="checkbox"/> その他()%
------	--

教科書	リハビリテーション医学 (メディカルビュー社)
参考図書	学生のためのリハビリテーション医学概論 第3版 (医歯薬出版社)
留意事項	予習復習をすること

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法の全体像を把握する。保健・医療・福祉における作業療法の対象・手段・方法、職業倫理等について学ぶ。

◇到達目標

これから目指す作業療法士という職業について理解を深める。
各領域における作業療法士の役割について学ぶ。
プロフェッショナリズムの基礎的な力を養う。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	イントロダクション	講義・演習	
第2回	作業療法とは何か	講義・演習	
第3回	作業療法と関連する学問 医学系科目と作業療法	講義	
第4回	作業療法の定義	講義	
第5回	作業療法の対象 ①精神障害	講義	
第6回	作業療法の対象 ②精神障害	講義	
第7回	作業療法の対象 ③高齢期の作業療法	講義	
第8回	作業療法の対象 ④高齢期の作業療法	講義・演習	
第9回	作業療法の対象 ⑤身体障害の作業療法	講義	
第10回	作業療法の対象 ⑥身体障害の作業療法	講義	
第11回	作業療法の対象 ⑦発達障害の作業療法	講義	
第12回	作業療法の対象 ⑧地域における作業療法	講義・演習	
第13回	作業療法の対象 ⑨地域における作業療法	講義	
第14回	作業療法と関連する職種と作業療法士の職業倫理	講義・演習	
第15回	試験およびまとめ	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (40 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (20 %) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (40 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	--

教科書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論 第3版 (メジカルビュー社)
参考図書	
留意事項	予習復習を行い、理解度を高めることを心がけてください。 なお、『作業療法の対象』では、講義順序が変わることがあります。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学概論 (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	1	前期	必修

◇講義概要

作業療法で実施する評価の基本的な考えや目的、さまざまな評価方法を理解する。また、作業療法における共通の評価法を講義と実習を通して学ぶ。

◇到達目標

対象者を評価することの意義と目的を知ることができる。
 さまざまな評価方法を理解することができる。
 基本的な評価と記録ができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、評価の意義と目的	講義	
第2回	評価の対象と課程、国際生活機能分類 (ICF)	講義	
第3回	評価の手順、記録・報告	講義	
第4回	面接	講義・演習	
第5回	観察、記録・報告	講義	
第6回	観察、記録の実際	講義・演習	
第7回	評価結果の解釈のしかた、治療計画	講義	
第8回	評価結果の解釈の実際、治療計画	演習	
第9回	形態測定 (四肢長)、握力測定	講義・演習	
第10回	形態測定 (周径)	講義・演習	
第11回	意識、バイタルサイン	講義・演習	
第12回	バイタルサイン, 臨床検査値の読み方	講義・演習	
第13回	COPM	講義	
第14回	COPM の実際	演習	
第15回	試験・まとめ	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (70 %) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (15 %)
	<input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート (15 %) <input type="checkbox"/> その他 (%)

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 (医学書院)
参考図書	
留意事項	形態測定演習時は、上下肢の肌を出すことができる服装で参加する。 予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 レポート課題は提出期限を厳守する。

令和6年度 作業療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
作業療法評価学 I (実務経験のある教員等による授業科目)	渡邊 俊行	1	2	後期	必修

◇講義概要

適切な治療および指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本事項について、講義と実習を通して学ぶ。

◇到達目標

- ・評価の意義，目的を説明できる
- ・各評価法の意義，方法，目的を説明できる
- ・測定（検査）方法を修得し実施できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義	
第2回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第3回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第4回	Brunnstrom Test、上田による12段階法	講義・演習	
第5回	関節可動域測定	講義・演習	
第6回	関節可動域測定	講義・演習	
第7回	関節可動域測定	講義・演習	
第8回	関節可動域測定	講義・演習	
第9回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	試験	
第10回	実技試験：OSCE（Brunnstrom、上田）、課題：国家試験過去問題	試験	
第11回	摂食・嚥下機能評価	講義・演習	
第12回	摂食・嚥下機能評価	講義・演習	
第13回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	試験	
第14回	実技試験：OSCE（ROM）、課題：国家試験過去問題	試験	
第15回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第16回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第17回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第18回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第19回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第20回	徒手筋力検査法	講義・演習	
第21回	排泄機能評価	講義・演習	
第22回	排泄機能評価	講義・演習	

令和6年度 作業療法学科 シラバス

第23回	実技試験：OSCE (MMT)、課題：国家試験過去問題	試験	
第24回	実技試験：OSCE (MMT)、課題：国家試験過去問題	試験	
第25回	反射検査、姿勢反射検査	講義・演習	
第26回	反射検査、姿勢反射検査	講義・演習	
第27回	認知・知的機能評価	講義・演習	
第28回	認知・知的機能評価	講義・演習	
第29回	まとめ	講義・演習	
第30回	試験	試験	

評価方法	■試験 (30 %)	■実技試験 (30 %)	■演習評価 (20 %)
	■小テスト (10 %)	■レポート (10 %)	□その他 (%)

教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 (医学書院) 新 徒手筋力検査法 原著第10版 (協同医書出版社) PT・OTのための画像のみかた 第2版 (金原出版)
参考図書	ベッドサイドの神経の診かた (南山堂)
留意事項	予習・復習を行い、疑問点をそのままにせず質問する。 講義・グループワーク・演習へ主体的に参加する。 レポート課題は提出期限を厳守する。